

自閉症総合援助センター 萌葱の郷

# ASSIST



～芽吹く未来へ～

## ◆共同生活介護 「ケアホームかわしま」

障がいのある人もない人も、地域で共に暮らす共生社会の実現に向けて、自閉症の人たちが地域で共同生活を営む場として、共同生活介護「ケアホームかわしま」を平成22年1月に定員10名で開設しました。

利用者が地域において共同生活をしながら自立した日常生活、または社会生活を営むことが出来るように、入浴、排泄、または食事の介助、相談、その他の日常生活上の援助を行っています。

「ケアホームかわしま」は、豊後大野市犬飼町の商店街を抜けて駅に向かう途中の天神地区の閑静な住宅街にあります。開所から4年が経ち、地域の方々とも行事を通して触れ合うことで、理解を深め合って生活しています。

2014.4.1 発行  
VOL.6

# 障害福祉の動向と これからの展望

理事長 五十嵐 康郎

(全国自閉症者施設協議会会長・日本自閉症協会副会長)



平成 18 年に障害者自立支援法が施行され、利用者負担を応益負担化したことで利用者負担が大幅に増えたために必要なサービスが利用できなくなったり、支援費の日払化により、事業者収入が大幅に減少し、事業運営が困難になったこと等から大きな社会問題となりました。

障害者団体等を中心に抗議行動や訴訟問題にも発展するなど、障害福祉がこれほどの関心を集めたことはかつてないことであり、利用者負担の軽減や事業者救済を柱とする特別対策や緊急措置が実施されました。総選挙の結果、マニフェストに障害者自立支援法の廃止、国連障害者権利条約の批准を掲げた民主党を中心とする政権が誕生し、障がいのある当事者を中心に構成された障害者制度改革推進会議のもと、障害者総合福祉法の骨格提言がまとめられました。

平成 22 年 7 月の参議院選挙で民主党が大敗し、野党の賛成を得なければ法律が成立しない「ねじれ現象」が生じたことから、自公政権時に衆議院の解散に伴って廃案となった「障害者自立支援法等の一部を改正する法律案」とほぼ同内容の「障がい者制度改革新本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律」（つなぎ法）が与野党議員の共同提出による議員立法として成立し、さらに障害者自立支援法の一部改正により、平成 24 年 6 月に障害者総合支援法が成立しました。

国連障害者権利条約という追い風もあり、障害者自立支援法施行によって義務軽費化されたこと、様々な問題が噴出し、社会問題化したことで結果的にこの 8 年程で障害者福祉サービスは事業者数、利用者数ともに大幅に増加し、障害福祉予算もほぼ倍増しました。

その結果、皮肉なことに社会福祉法人の入所施設が平均 3 億円の剰余金を保有していると報告されています。これは多くの社会福祉法人が利用者の福祉向上や職員の処遇改善を十分に図っていないこと、新たな社会的ニーズに応じきれないことが一因となっています。運営費のほぼ全てが税金であり、非課税法人として優遇されている社会福祉法人が徒に剰余金を積み増すのであれば、社会福祉法人の公共性・公益性の観点から果たすべき社会的使命を放棄していることとなります。障害者自立支援法施行によって制度や政策、政治が問題になりましたが、今度は社会福祉法人を中心とする障害福祉事業者の資質が問われています。

当法人では居室の個室化や手厚い職員配置、パート・臨時職員の正規職員への登用、人材育成と職能等級制度による処遇改善、さらには新規早期療育拠点の開設やアスペルガー症候群の人等への就労移行支援、強度行動障害療育棟、重い障害や行動障害のある人のグループホーム増設、スーパーバイザー養成等の課題に取り組むことで、自閉症を中心とする発達障害のある人たちが、豊かに育ち、安心して暮らすという理念を実現し、社会福祉法人としての社会的使命を果たすべく決意を新たにしています。





# 平成25年度発達障害者支援者実地研修事業（厚生労働省委託事業）

昨年度に続き、本年度も厚生労働省の委託を受け、『平成25年度発達障害者支援者実地研修（強度行動障害）』を実施いたしました。強度行動障害や行為障害のある利用者を数多く受け入れて支援を行ってきた当法人の実践を軸に、地域移行に関わる利用者への支援、関係機関との情報の共有や協働例、個別的な援助技術や環境の調整、福祉サービスの利用や組み合わせ、二次障害への予防的な対応や支援方法等について学びました。

今回は、部分参加も含めた15名が受講、県内で発達障がいへの支援に携わっている支援者の方をはじめ、遠くは石川県や福島県、愛知県からもご参加いただきました。また、保育士や相談員、ホームヘルパーや児童デイサービスの職員等職種も多様にとんでおり、多岐にわたる情報交換ができ、充実した研修になったと思います。中には研修で学んだことを早速所属場所で実践した方もおり、「利用者の方に変化が！こんなに早く変化ができるのかと驚いた」と研修報告でお話ししてくださいました。

本研修を修了され、各所属に戻られた皆様が、地域生活をマネジメントする専門家としてご活躍されることを願っております。

※研修プログラムの詳細は、  
イコールのホームページをご覧くださいませ。  
⇒⇒⇒ <http://www.ecoal.info/>



《第2・3クールを受講された研修生の皆さん》

## 平成25年度大分県発達障がい者支援センター主催講演会のご報告

平成25年11月10日（日）別府ビーコンプラザにおいて、『子育て・発達支援の最前線』をテーマに講演会を開催致しました。一日に渡っての開催にも関わらず、当日は保護者・ご家族の皆様や、教育・福祉・保健・医療・労働関係者等、総勢300名の方々がご参加いただきました。

午前中は、矢頭道三氏（大分県臨床心理士会副会長）をお迎えし、「児童の保護者及びその家族への支援について」と題してご講演いただきました。長年の臨床経験をもとに、面接での手法や傾聴の仕方・重要性などについて、演習を交えながらお話し下さいました。実際に体験することで日常会話の重要性や難しさ、聴く態度が話し手に与える影響を再考するとともに、今後の保育現場で活かしていきたいとの感想を多くいただきました。

午後は、自閉症療育の先駆者であります石井哲夫氏（東京都発達障害者支援センター長・日本保育協会理事長）を講師としてお迎えし、「保育の理念と実践哲学」と題してご講演いただきました。保育実践に取り組む上での理念について、実際の療育現場での映像も使用しながらご講演いただきました。参加者の皆様からは、保育者としての使命を再確認するとともに、石井先生の熱意に感銘を受けたという感想を多くいただきました。

その後、『子育て・発達支援における相談ニーズ』をテーマに掲げ、金子進之助氏（別府大学短期大学部学長）の進行のもと、シンポジウムを行ないました。シンポジストとして、山口正行氏（大分県福祉保健部こども子育て支援課長）、土谷修氏（おおいたホームスタート推進連絡会議会長・すがお保育園長）、越智芳子氏（社会福祉法人別府発達医療センター児童発達支援センターひばり園 保育係長）、五十嵐猛（大分県発達障がい者支援センター長）が壇上に上がり、大分県での取り組みや制度の具体的な流れに関する情報提供や子育て現場での課題等が意見としてあがりました。その中でも保育園でのソーシャルワークのニーズ向上を中心とする。保育園でのコーディネーターの必要性について議論がなされました。各分野の立場からの意見交換を行なうことができ、『保育士コーディネーター』の養成をはじめ、大分県内での子育て環境の整備により一層取り組んでいく方向でシンポジウムは幕を閉じました。本講演会及びシンポジウムが大分県の今後の子育て支援・発達障がい者支援充実の一助となることを願っております。



ご協力いただいた皆様、  
本当にありがとうございました。



# 地域での共生・社会参加 ケアホームかわしま

## ☆ 運営目的 ☆

地域での共生・社会参加ができるよう支援し、地域での自立生活を実現することを目標とします。家庭的な雰囲気、個別的なケアを提供します。地域で安心して暮らせるように、余暇を充実させて、快適な生活の場を目指します。



## ☆ 定員 ☆

共同生活介護 10名

## ☆ 一日の流れ ☆

- 7:00 起床、検温、清掃（居室、廊下、トイレなど）
- 8:00 朝食・歯磨き・準備
- 8:40 出勤（めぶき園・どんこの里いぬかい・リファイン大分）
- 9:00 各活動場所で仕事・活動
- 12:00 昼食・休憩
- 13:00 各活動場所で仕事・活動
- 16:00 } 散歩・おやつ・入浴開始・洗濯
- 17:30 }
- 18:00 } 夕食・歯磨き
- } 余暇（夕食レク・買物レク・コーヒータイム・おやつ・
- } 各種実習日誌・自宅へ電話するなど）
- 22:00 } 就寝



## ☆ 行事 ☆

- 4月 お花見会
- 5月 ゆうあいスポーツ大会
- 6月 めぶき園大運動会
- 7月 クラブルクリエーション
- 8月 天神地区子ども会夏祭り



外食レク



誕生日会



みんなで手作りの誕生日ケーキ

- 9月 全体一泊旅行
- 10月 天満社秋季大祭（天神地区）  
ハイキングレクリエーション
- 11月 グループレクリエーション
- 12月 忘年会・クリスマス会
- 1月 初詣・新年会
- 2月 各課レクリエーション
- 3月 合同レクリエーション
- 毎月 調理実習及び誕生日会・外食レク・買い物レク  
どんこの里レクリエーション



## ☆ 食 事 ☆

食事担当の職員を配置し、朝食と夕食をケアホームかわしまで調理して食べ、昼食は各活動場所で食べます。少人数の特徴をいかしたメニューも取り入れ、家庭的な雰囲気のある食事が特徴です。利用者のお誕生日会やクリスマス会など楽しい行事も夕食時に行い、利用者も非常に楽しみにしています。



## ☆ 入浴・洗濯 ☆

毎日、男性・女性それぞれの担当職員が見守り、入浴介助を行っています。また入浴後には、各自で洗濯しています。

## ☆ 憩いの場 ☆

食堂は全員が集合できる憩いの場になっています。食事は勿論のこと、おやつや、コーヒータ임、テレビを観ながら職員とのコミュニケーションの場にもなっています。



## ☆ 余暇活動 ☆

夜間の余暇時間は、家庭へ電話をしたり、日記を書いたりしてそれぞれ楽しんでいきます。毎月レクリエーションとして、夕食と買い物に出かけています。又お誕生日会を兼ねた調理実習も行っています。



## ☆ 職員配置 ☆

食事担当1名・環境整備担当1名、入浴担当男女各1名、宿直担当1名の職員が配置されています。

## ☆ 帰宅状況 ☆

各ご家庭の希望により、ほとんどの利用者が毎週末帰宅しています。JR犬飼駅が近くにあり、歩いていける距離ですので、自動車を利用する利用者は歩いて帰宅・帰園することもできます。保護者の方は、いつでも訪れることができます。



## ☆ 地域交流 ☆

河島地区（自治会）の行事や集会などには職員が必ず出席しており、近隣住民の方たちと交流を図り、理解を求めようとしています。年に1回、天満社秋季大祭という大きなお祭りがあり、毎年利用者と職員が参加しています。地域の方と山車を押したりして、地域住民の方々と非常に良い交流となっています。また夏休みには、地域の方々と協力して子ども会夏祭りも開催しています。今後も積極的に地域との交流を図っていきたいと思います。





話し手：広瀬 美恵 (=広)  
聞き手：A

A：よろしくお願ひします。

広：こちらこそお願ひします。

A：早速ですが、めぶき園の栄養士になったきっかけを教えてください。

広：最初の職場も同じような施設だったし、3年もその仕事をしていたのでね。お役にたつことがあればしてみようかなと思って、当初は犬飼の体育館を借りて、そこに利用者が通いで来られてました。お弁当も人数分よそに発注していたんです。めぶき園での食事が始まったのは、利用者18名が初めて園で生活を始めた6月9日の昼食がスタートです。

A：栄養士になられて苦労されたことは何ですか？

広：以前働いていた施設では、みんな配膳されていたものは、残さず食べていたんですよ。大盛り、小盛りはあるんだけどさっさと食べて下膳してくる。でも、めぶき園では食事を作る度に残飯桶が満杯(笑)。それがね、揚げ物とか煮物を一切食べないんですよ。煮物、野菜は一切ダメ！もうスタート時期はね、ほんとに食べられるのが限られているので、作っても作っても残飯の形で残ってくる(笑)。これでいいのかなと悩んだ時期がありました。「食べられるものだけを作っているのかな…」と思いながら、食べられるを極力献立に入れるように最初はしていたけど…本当に生野菜とか一切食べなかった(笑)。

A：偏食が結構多かったんですね。

広：そう。あったみたい。しっかり食べる子も何人かいたけど限られていて…8割方の人は大変でした。厨房の人と話をして、「何を？どうしたら？食べてくれるだろうか…」と試行錯誤でした。栄養価とか…ないよね、最初は。「ただ少しでも食べてくれたらいいかな。」という感じでやってきました。それが段々と食べそうな人から支援員が声を掛けながら少しずつ食べるようになっていって。完全に残飯がなくなるまで5年もかかった。

A：残飯がなくなった理由は何だったと思いますか？

広：たぶんだけど…家に帰ると好きなものを食べられるけれど、園ではそういうわけにはいかない。それを食べなければお腹がすく。支援員も気をつけて「食べよう！」と声をかけていたけれど…パニックになって目傷いたり…。その繰り返しだったけど、本当に少しずつ…水や麦茶で流し込む人もいたけれど(笑)、嫌いなものでも半分の量にすれば頑張れる人もいた。逆に、「無理して食べなくてもいいよ」と伝えても、取り上げられる感覚で嫌がる方もいる。苦手なものだからと配慮して最初から量を少なくしておく、見た目の違いでわかるんだろうね、多いのを持っていく(笑)。皆と一緒になくてはいけないと思っているのかな…ある保護者の方からは「学校給食の名残で、出されたものはきれいに食べてしまわないといけなく思っているところがある」という話を聞いたこともある。今でも偏食が強い方もいるし…これから年齢が上がって生活習慣病等を考えた時に、規則正しい食事を摂った方がいいんだろうけど。食べることで難しいね。それでも、保護者の方に「食べる野菜の品数が増えたのよ！厨房の人のおかげね！」と言われて、嬉しかった。他の厨房職員もそう！「家で『ひじきが食べたい』とか『切干が食べたい』とか言うから出してあげる。」という話を聞くようになったのは4~5年経ってから。

A：保護者の方も嬉しかったでしょうね。では、めぶき園の人気メニューは何でしょう？

広：カレーとかハンバーグだわ。今の子どもさんが好きな物。コロケとか。でもコロケとかしなくなってきた。保護者の方からはご指摘を受けたこともあるんですよ(笑)。例えば、当初はお肉は1人100グラムあったんだけど、見た目かな、「お肉が少ない」とお話があったことがあります。中・高等部を卒業して15~18歳くらい、育ち盛りだから心配だったんでしょ。確かにお肉だけ食べたら少ないんだけど、全般的に食べたら結構お腹いっぱいになる。昔ね、週末帰宅を終えて帰園してきた利用者の方が、家でお腹いっぱい食べてきて夕食を食べられなくて…保護者の方がかわりに食事を摂ったことがあって(笑)。「結構ボリュームがあるね。全部食べたらお腹いっぱいになる。」と言われてました、そんな保護者の方が2~3人いたかな(笑)。

A：食べてもらうのに工夫していることは何ですか？

広：やっぱり辛いのが好き、しょうゆをたっぷりかけてね(笑)。でも、本人に任せてしまうとドバーッとかけちゃうので…事前にしょうゆをかけて出したりしています。あとは、食べやすいように色々工夫しているかな。基本は皆一緒のものを出しているんだけど、かたちをかえたり、嫌いなものは取りのぞいたり。例えば、カレーライスご飯とルーを別々にしておくとか大丈夫とか、チーズやタルタルソースをかけなければ食べられるとか。あとは…病気の時は少しでも食べられるようにおかげにしたり…でも、おかげが嫌いな人は多いんだよね(笑)。そういう人には、硬めのごはんを少なめに入れて出している。おかげだと他のおかげも食べなかつたりするのに、ご飯にするとおかげへの管も進む(笑)。日曜日の夜は全重量を減らすかな、家でいっぱい食べてきているから。そういう工夫はしてるよ。ほんのちょことしたことなんだけど、食べてくれるのであれば臨機応変に対応している。利用者の方にとってお出かけもお買い物も楽しみだけど、食べることもまた楽しみだからね。毎週木曜日が金曜日に、次の週の献立を貼りだすんだけど、木曜日くらいから「貼って！貼って！」という利用者の方が何人かいて、間違っているところがあったら「ここ、いらない」「違う！」と注意される(笑)。メニューもね、「同じものの繰り返しじゃ悪いな」と思って、本とか見て献立を立てて作ってみて…息子に試食してもらってた、「まずい」とか「こんなのはおいしくねえわ」とか言われながら(笑)。

A：個々に合わせて配慮しているんですね。では、栄養士をしていて良かったなと思うことは？

広：やっぱり、みんながきれいに食べてくれることね。残さずに、何でも食べてくれるということが一番嬉しいかな。それに、私の立てた献立で調理員の人もきちんと対応してくれるので有り難い。通所も含めて利用者の方の人数も増え、加えて配食やケアホームとの兼ね合いもあって…献立を立てつつ事務処理もしつつ、調理にも携わって大変だと感じることもあるけれど、厨房職員の動きが良く、とても助けられています。

A：衛生面で気を使っていることは？

広：病気とかじゃないけど、ノロ等には注意しています。最近もニュースでよく見るので、気が気じゃない…厨房職員には最初にきちんと伝えておけば、しっかり守ってくれるので。

A：栄養士のこれからの役割を教えてください。

広：利用者が、あんまり病気をしないですね、少しでも長くって欲しいと思う。今は20数年経って、年齢も上がってきた。年齢的に高脂血症とか段々出てくる。高齢化するので病気とか気にしなくてはいけないので、そろそろ若干考えなくてはいけない時期に差し掛かっているのかな。これからは食事作りも大変になるかな。「病気だから〇〇食で…」と代外で食べるというのかわいそうなので、そのようにならないようにこのままの状態でも歳を取って欲しいと思う。食事の面でサポートしていたら…。

A：これからもよろしくお願ひします。ありがとうございました。

# 【わたしの療育論】

## なごみ園の療育について～心を育む～

こども発達支援センター なごみ園 支援課長 秋月 正博

例えば、友だちへの他害行為があるAくんというこどもがいたとしまして、「Aくんが友だちを叩くのどうしたらやめるかな？」という視点と「Aくんが友だちを叩いた時どう気持ちだったかな？」という視点のどちらで先に見ているか考えてみてください。もしかすると前者のほうが多いのではないのでしょうか。支援者の心理として、特に行動面が激しいこどもに対しては、周りへの影響を考え、その子の気持ちの面よりも行動面をどう改善していくかに考えが及びがちです。かく言う私自身がなごみ園で働き始めた当初は、この行動面の改善にスポットを当てた関わりをしていたのですが、そうすると、信頼関係を上手く築けず、本来伝えたかった社会性やルールについて耳を傾けてもらえなくなることが何度かありました。そこで、どうやったら私の声に耳を貸してくれるか考えて、取り組んでいったのが今回の題でもあげている「心」へのアプローチです。

具体的にどのような関わりをしていくのかといえますと、こどもの心の状態を推測しながら関わり方を考えていきます。まずは「安心感」が育っているかに着目します。なごみ園の通園児さんの中には心が傷付いて、自分を否定的に捉え、周りを敵視した状態で来園する児童がいます。そこでまずは、ありのままの彼ら

の姿を受け入れ、私は存在価値がある、必要な人間だ、大切な人間だ、私は私でいいんだ、という気持ちを持ってもらうところからスタートします。

次に大事なものは「自信」が育っているかです。自分を受け入れてもらっているという安心感の中で成功体験を積み重ねることで、これまで挑戦できなかったことにも少し勇気を出して、チャレンジできるようにサポートしていきます。集団活動への参加が苦手なこどもなどでも、この「自信」が出てきて、信頼できる大人の支えがあれば、少しずつ活動に参加できるようになります。

この「安心感」と「自信」という土台がきちんとできて、「関係性」ができたところで、私の価値観（社会性やルール）を伝えていくようにしました。そして、伝える際には、まずは彼らの主張を聞き、その気持ちを受け止めてから、私の考えを述べるようにしました。そうすると、ルールを守らせようと躍起になっていた頃よりも、きちんとこちらの言葉が伝わっていると実感できています。

少し回り道にはなりますが、目の前の行動を変えていくために「心」にスポットライトを当てること、実は行動の安定のための近道であると思います。

### 訂正と お詫び

法人広報誌「ASSIST」Vol.5(2013.10.1発行)の記事の中で、名前の文字に誤りがありました。  
「太田美恵子様」→「太田美枝子様」  
ご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させて頂きます。

### \* めぶき園 講演会名簿 \*

#### 【平成 24 年度 社会福祉法人萌葱の郷めぶき園後援会名簿】

一井 浩美様・西尾 武様・高松 昌弘様・川田 真一様・山田 政之様

#### 【平成 25 年度 社会福祉法人萌葱の郷めぶき園後援会名簿】

田北 晃明様・野田 フサ子様・仲間 克之様・徳丸 展子様・大多 和佳子様  
山田 直記様・塩野 纈様・矢野 丞様・山田 政之様・岡本 保博様  
岡本 崇様・武井 清展様・衛藤 成治様・薬師神 孝次様・西原 廣紀様  
西原 加代子様・姫野 元春様・松田 邦博様・松田 浩子様・堀 美佐子様  
柿坂 重治様・柿坂 典子様・安東 幸一様・足立 義信様・高橋 勝己様  
堀 修一様・河野 京次様・秦 鉄也様・村上 一文様・阿南 吉充様  
岩崎 英一郎様・上杉 哲夫様・西尾 武様・佐々木 信彰様  
川久保 九州男様・薬師寺 幸子様・安田 唯康様・佐藤 テル子様  
河野 勝征様・後藤 豊春様・濱内 優誠様・下川 禎子様  
遠藤 三枝子様・一井 浩美様・花宮 憲央様・高松 昌弘様  
山本 五十六様・川田 真一様・大分県自閉症協会様

(順不同、平成 26 年 3 月現在)





## 豊後大野市



**障害者支援施設 めぶき園(法人本部)**  
大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10  
TEL097-578-0818  
FAX097-578-0819  
mebukien@moeginosato.net

### ホームヘルプサービスセンター らすかる

大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10  
TEL097-578-1888  
FAX097-578-0819  
rasukaru@moeginosato.net

### 特定相談支援事業所 プラス

大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10  
TEL097-578-0818  
FAX097-578-0819



**こども発達支援センター なごみ園**  
大分県豊後大野市犬飼町大寒2149番地1  
TEL097-586-8070  
FAX097-586-8071  
nagomi@moeginosato.net

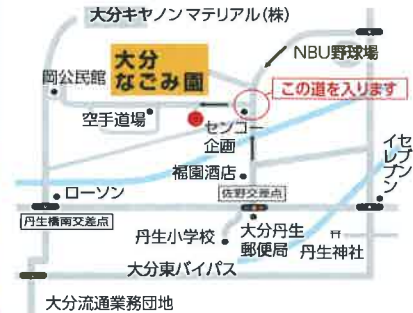


**就労支援施設 どんこの里いぬかい**  
大分県豊後大野市犬飼町久原1863番地8  
TEL097-578-0077  
FAX097-578-1226  
donko@moeginosato.net

## 大分市



**こども発達支援センター 大分なごみ園**  
大分県大分市丹生210-3  
TEL097-524-3636  
FAX097-524-3637  
oita.nagomien@gmail.com



### 萌葱の郷 ロードマップ



**いぬかい保育園(いぬかい子育て支援センター)**  
大分県豊後大野市犬飼町田原1419番地  
TEL097-578-0706  
FAX097-578-0710  
inukai-hoikuen@moeginosato.net



**ケアホーム かわしま**  
大分県豊後大野市犬飼町下津尾3709-8  
TEL097-578-0885



**大分県発達障がい者支援センター ECOAL**  
大分県豊後大野市犬飼町久原1863番地8  
TEL097-586-8080  
FAX097-586-8181  
info@moeginosato.net

### ◆協力者御芳名

《現金の部》河島 淳子様・堀内 桂輔様・高橋歯科医院様・秦 正也様  
伊美 信長様

### 編集 後記

新年度の「ASSIST」を発刊することができました。今回も編集委員では、掲載記事の選択に頭を悩ませましたが、何を一番みなさんに伝えたいかを考えた結果、今回のような内容になっています。ASSIST 副題にもなってます「芽吹く未来へ」に向けて、当法人の思いをこれからも発信していきたいと思ひます。

